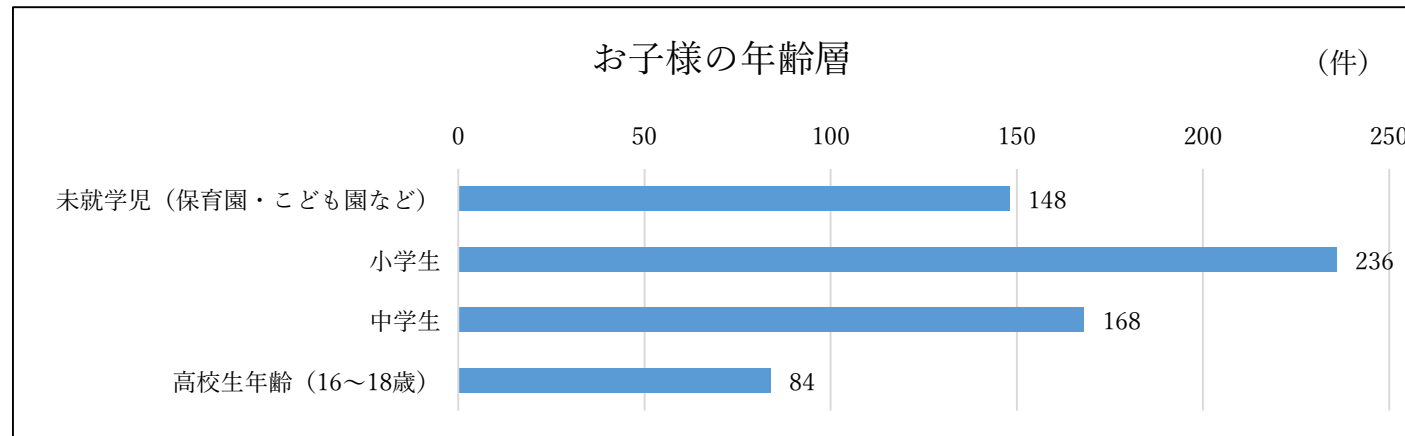


勝山市「応援金115」に関する保護者向けウェブアンケート集計結果報告書

1. 調査概要

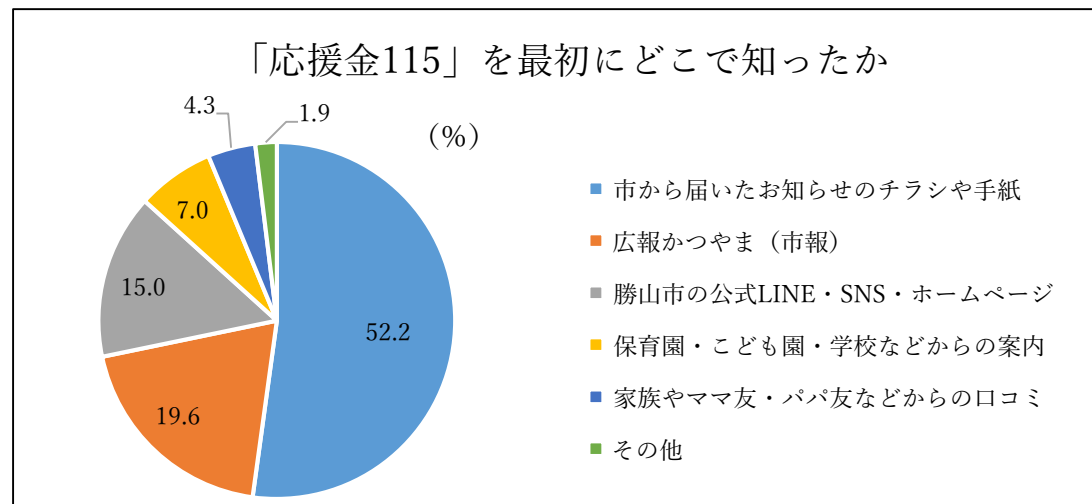
- ・調査目的 : 子育て世帯へお届けした「応援金115（いいこ）」の活用実態や市の子育て支援施策の満足度を把握し、今後の子育て支援施策の更なる充実に向けた基礎資料とする。
- ・調査期間 : 令和8年7月27日～8月31日
- ・調査方法 : 市内保育園・認定こども園、市立小中学校、福井県立勝山高等学校、地域子育て支援センターを通じて保護者へアンケートを依頼した。1世帯につき1回答とした。
- ・回答数 : 414件

2. お子様の年齢層（当てはまるもの全て回答／全636件）



3. 「応援金115」を最初にどこで知ったか（単一選択／全414件）

選択肢	件数（件）
市から届いたお知らせのチラシや手紙	216
広報かつやま（市報）	81
勝山市の公式LINE・SNS・ホームページ	62
保育園・こども園・学校などからの案内	29
家族やママ友・パパ友などからの口コミ	18
その他	8



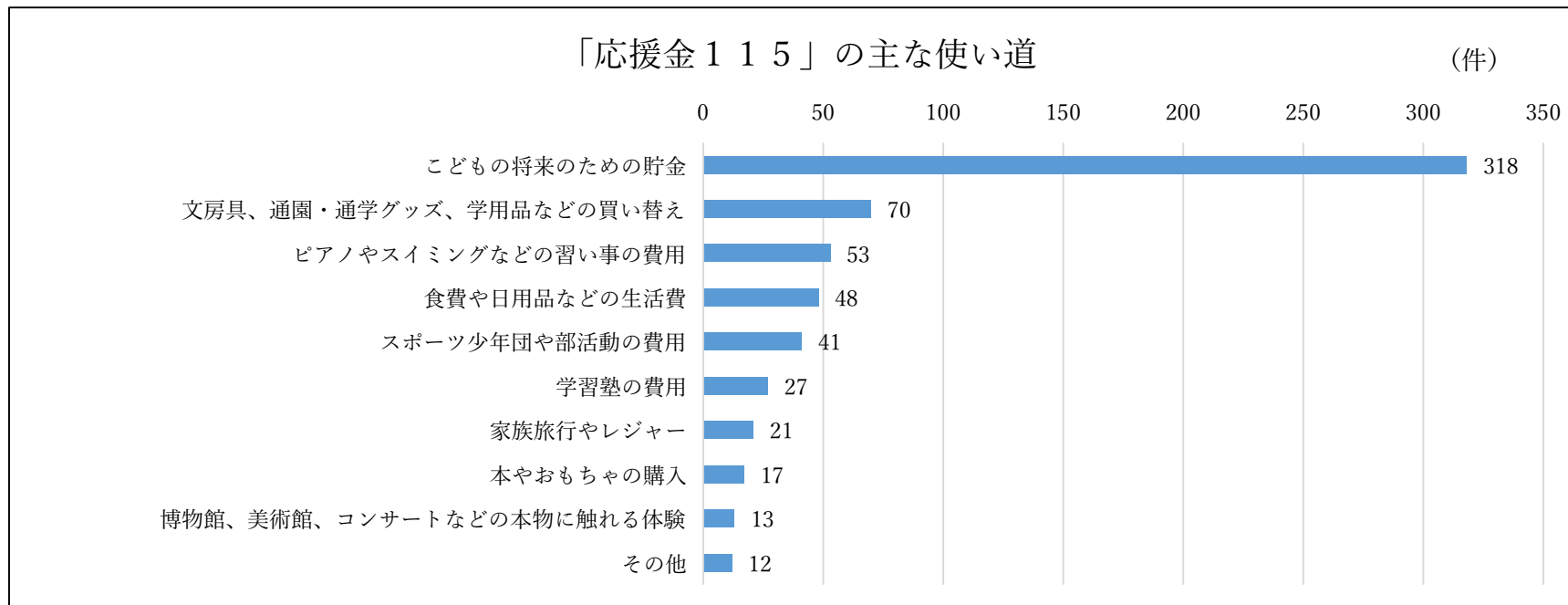
【その他の主な意見】

- ・ニュース、新聞 4 件
- ・市役所来庁時 1 件
- ・市長のあいさつ 1 件
- ・福井県立勝山高校のオープンスクール 1 件
- ・知らない 1 件

【考察】

「市から届いたお知らせのチラシや手紙」が半数を超えており、紙媒体による直接的な通知の効果が高いことが分かる。

4. 「応援金 115」の主な使い道（最大3つまで選択）



【その他の主な意見】

- ・学費や集金 4 件
- ・お小遣い 2 件
- ・体験や趣味 2 件
- ・貯金 2 件
- ・子ども自身に使い方を決めてもらう 1 件
- ・配偶者が使用したため知らない 1 件

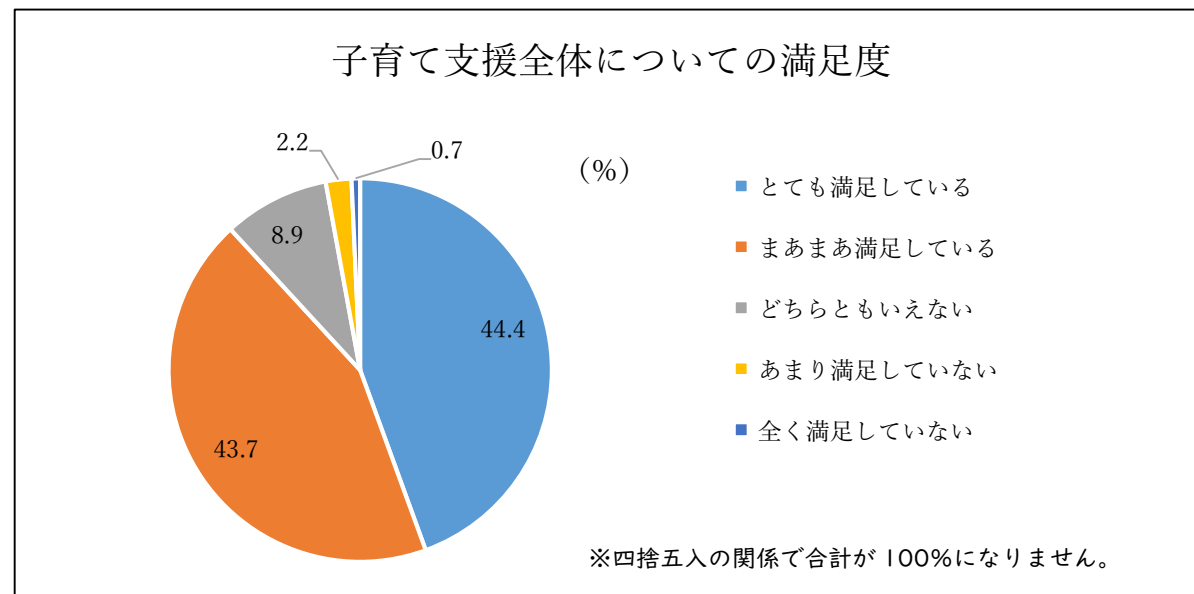
【考察】

「こどもの将来のための貯金」が318件と圧倒的最多であり、将来の進学・教育費に向けた心強い備えとして重宝されている。

5. 子育て支援全体の満足度とその理由

(1) 満足度の全体像（単一選択／全414件）

選択肢	件数（件）
とても満足している	184
まあまあ満足している	181
どちらともいえない	37
あまり満足していない	9
全く満足していない	3

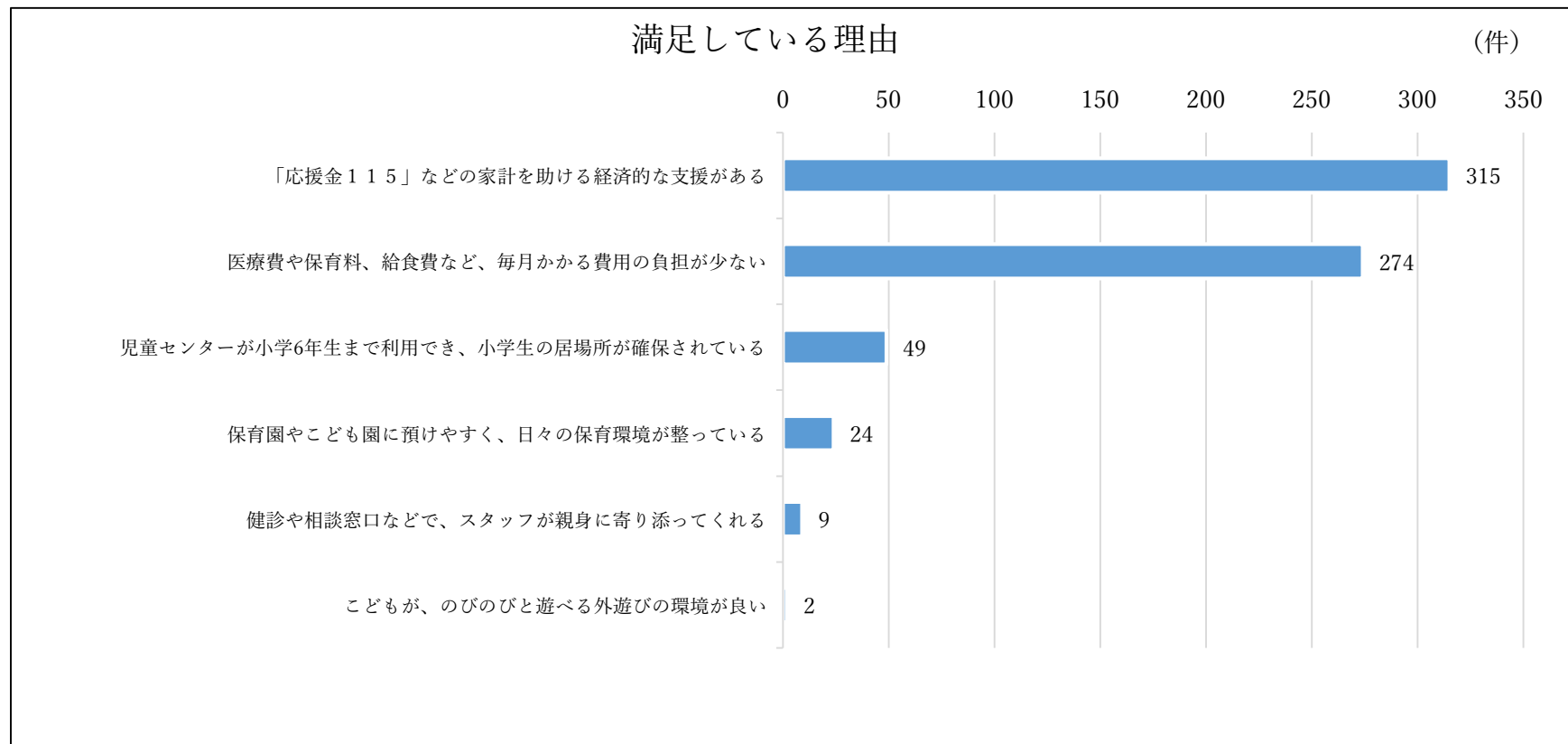


【考察】

「とても満足」「まあまあ満足」を合わせた肯定的な評価が88.2%（365件）に達し、勝山市の子育て支援施策は総じて高い評価を得ている。

反対に、「あまり満足していない」、「全く満足していない」をあわせた不満のある評価も2.9%（12件）ある。

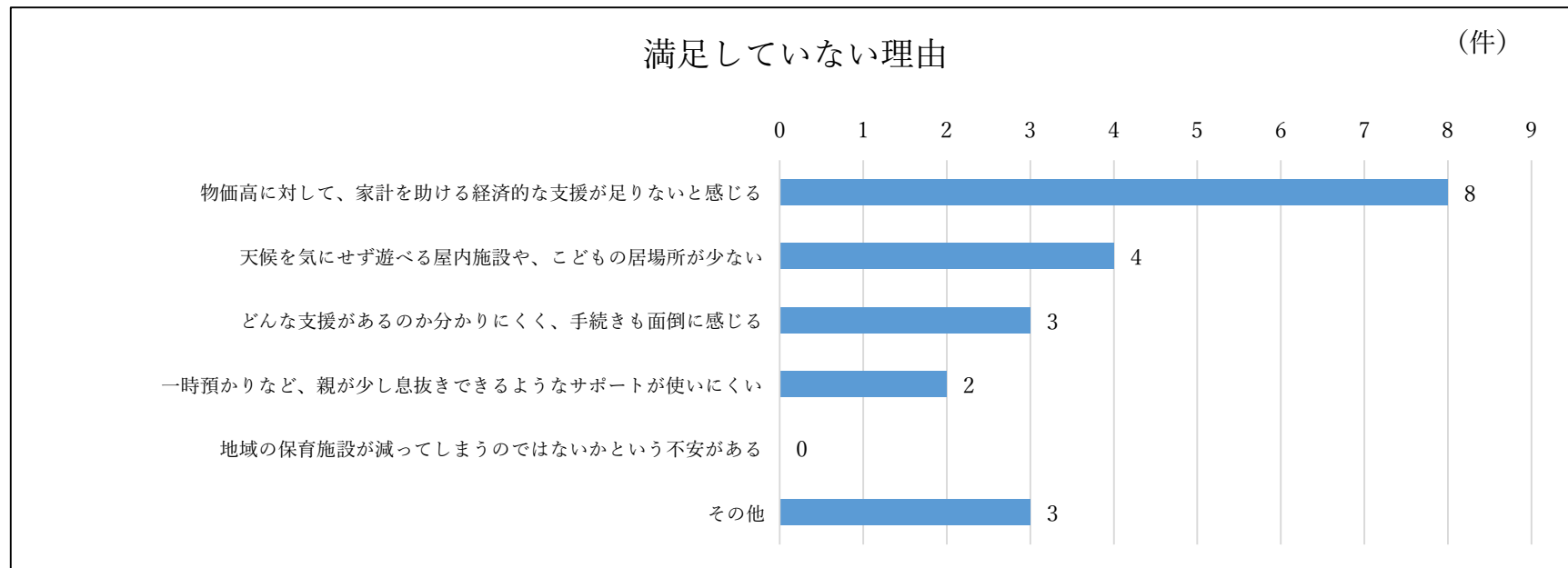
(2) 満足している理由（最大2つまで選択／とても・まあまあ満足していると答えた365件対象）



【考察】

応援金115と、日々の医療費・保育料等の固定費軽減が両輪となり、保護者の強い安心感・満足感を生み出している。また、児童センターの利用による小学生の居場所の確保も一定の評価を得ている。

(3) 満足していない理由（最大2つまで選択／全く・あまり満足していないと答えた12件対象）



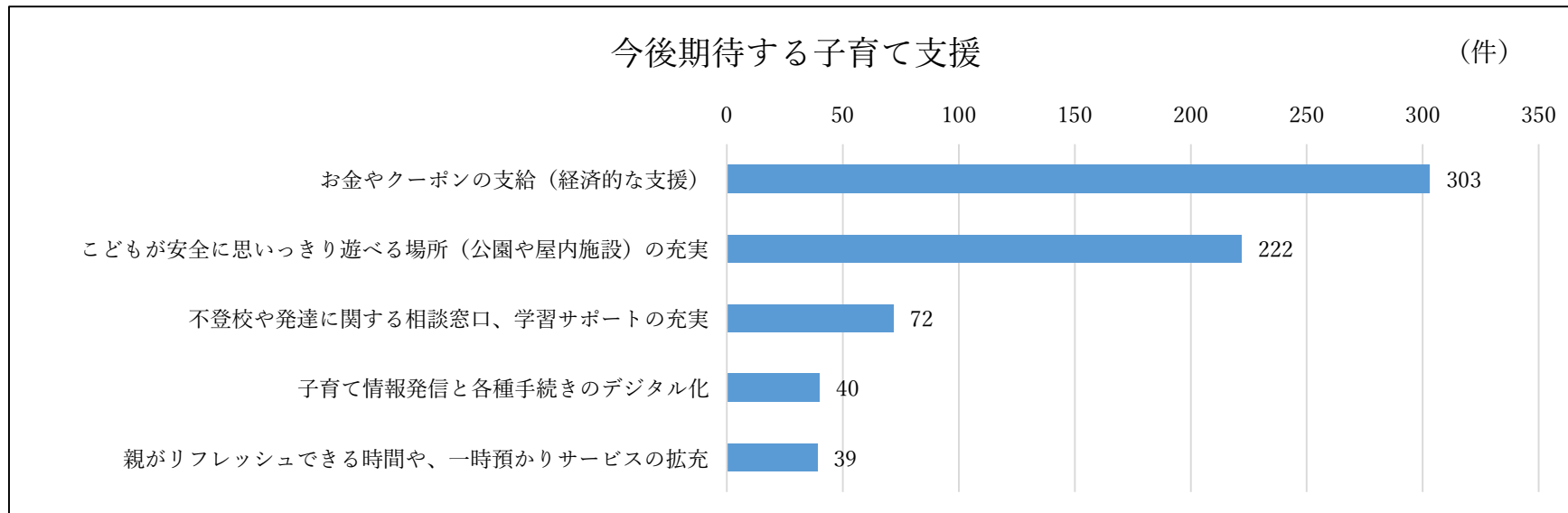
【その他の主な意見】

- ・中学生のこどもが県外で寮生活を送っているため支援を受け取れないことが不公平だ 1件
- ・保育園の対応への不満 1件
- ・こども3人から手厚くなるのをこども1人でも同等にしてほしい 1件

【考察】

不満や課題感を持つ層は少数ながらも、昨今の物価高騰に対する継続的な支援の必要性や、「屋内遊び場・こどもの居場所づくり」を求める声が背景に存在している。

6. 今後期待する子育て支援（最大2つまで選択）



【考察】

「お金やクーポンの支給（経済的な支援）」の期待が最高値を記録する一方、こどもが安心して遊べる「公園や屋内施設」の充実に200件を超える強いニーズが集まっており、今後の整備が求められている。

7. 自由記述

アンケートの最後の設問「自由記述（問 12）」には、121 件の回答が寄せられた。「特になし」などの定型表現を除いた約 120 件の具体的なご意見・ご要望について、内容の傾向ごとに分類・分析を行った。

保護者からは、日頃の支援に対する感謝の言葉に加え、選択肢のアンケートだけでは収まりきらない「より踏み込んだ切実なニーズや具体的な困りごと」が多数寄せられている。

【主な意見の内容】

①屋内遊び場・こどもの居場所の充実（約 24 件）

「天候を気にせず、室内でこどもが思い切り遊べる施設を作ってほしい（近隣自治体の新しい遊び場のような場所を希望）」という声が非常に多く見られた。

②高校・大学・専門学校世代への支援拡大と奨学金（約 22 件）

大学生や専門学校生まで支援の幅を広げてほしいという要望、大学の授業料、オープンキャンパス等の交通費、給付型奨学金の拡充を求める声が目立った。

③経済支援・物価高対策の継続、現物支給（約 19 件）

「応援金 115」の継続や、妊娠時の医療費無料化の復活などを望む声があった。

④保育・専門ケア（障がい児支援・産後ケア・多胎児支援など）（約 15 件）

発達支援や障がい児等へのサポートをより手厚くしてほしいという切実な声があった。

⑤小児医療・夜間診療体制の確保（約 10 件）

市内の医療機関や小児科の減少に対する不安や、休日・夜間に体調を崩した際のこどもの受診体制に対する懸念が寄せられた。

⑥子どもの移動・交通手段・送迎のサポート（約 9 件）

共働き世帯が多い中、夏休み中の部活動や臨時の時間割の際、バスの定期便やオンデマンド交通の数が限られており「送迎のやりくりが難しい」という課題が挙げられた。

⑦制度への感謝、その他（約 39 件）

「いつも手厚い支援に感謝している」「これからも子育てしやすい勝山であってほしい」といった、前向きなコメントや行政へのねぎらいが多数寄せられたほか、こどもの人数が減ってきていることへの不安や、各種手続きの簡略化の要望、応援金 115 がこどもの口座に振り込まれるため利用しづらいとの声があった。

【考察】

自由記述全体を通してみると、保護者の皆様は今回の「応援金 115」をはじめとする直近の経済支援に対して深く感謝している一方で、「こどもの成長に伴う教育費の負担増（大学・専門学校期）」や、「地理的・気候的なハードル（冬期の遊び場不足、通学・送迎の交通問題）」、さらには「地域医療や専門ケア（障がい児・多胎児）」といった、より構造的・長期的な課題に直面していることが浮き彫りになった。